

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

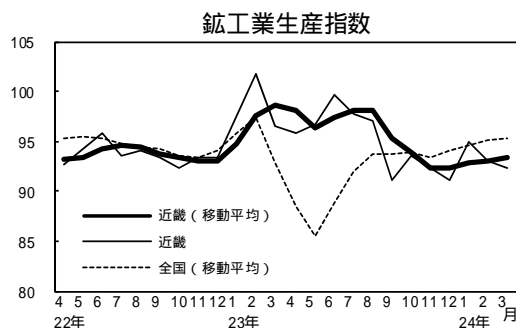
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年2月)	今回(平成24年5月)	
景況判断	弱まっている	足踏み状態	
鉱工業生産	緩やかに減少	おおむね横ばい	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は一部で北米向けや自動車用途で好調なものがみられたものの、ボイラ・原動機や一般機械器具部品が落ち込んだこと等から減少している。化学は一部で前期に中国の市況が悪く、生産調整で稼働を落としていたものが再開したこと等から増加している。食料品・たばこは酒類等が寄与し、増加している。電気機械はリチウムイオン蓄電池で東南アジア向けノートパソコン用途の需要が低下したこと等により減少している。鉄鋼は自動車用途が好調なことにより増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	17.0	4.7	1.0	0.8	6.6
化学	14.5	2.2	0.4	1.5	6.7
食料品・たばこ	9.1	0.8	1.8	2.3	14.3
電気機械	8.5	8.7	4.8	3.2	5.5
鉄鋼	7.5	1.9	8.4	4.5	2.8
鉱工業	100.0	3.0	1.2	0.3	4.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

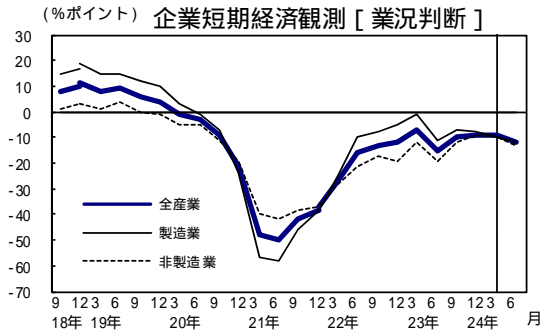
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

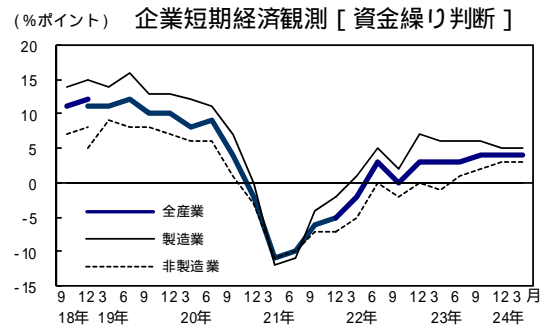
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

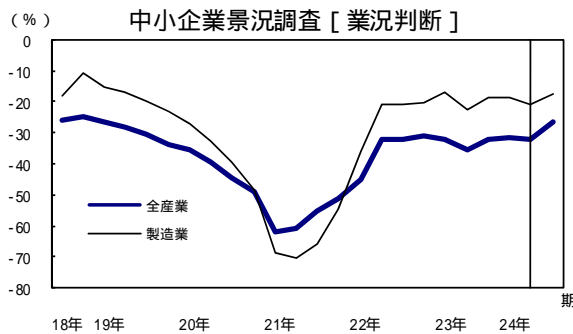
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

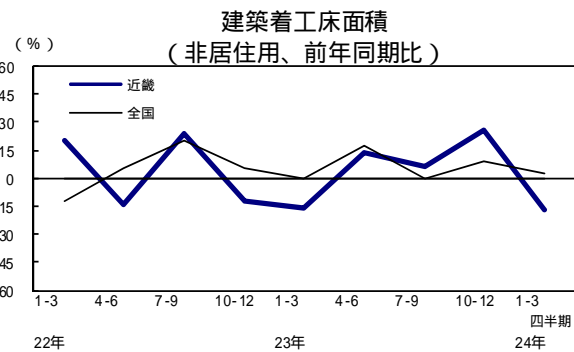
「海外向けの搬送ライン設備部品の受注は順調であるが、国内の受注は価格競争が激しく、伸び悩んでいる(輸送用機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度見込み
全産業	5.2( 3.4)	0.0
製造業	5.4( 2.2)	0.3
非製造業	5.0( 4.3)	0.3

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

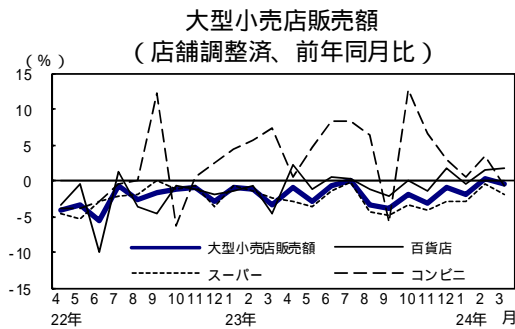
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で0.8%減、前期比で0.8%減となった。

百貨店は、1月は、初売りは好調であったものの、その後の寒波の影響で来客数が減少し、前年を下回った。2月は、前月に引き続き気温が低く、春物衣料は伸び悩んだが、バレンタイン催事や一部の閉店セールが好況であったこと等から前年を上回った。3月は、依然として気温が低かったことから春物衣料の動きが鈍かったが、前年の東日本大震災の影響による反動と株価が持ち直したこともあり、時計やジュエリーなどの高額品が好調で前年を上回った。スーパーは、飲食品は好調であったものの、依然として前年のエコポイント特需の反動により、テレビやレコーダー等が不振で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「気温が上がり春物商材の売上が伸びているが、単品購入が多く、必要な物以外は買わない傾向が続いている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	1.5	2.3	1.9	0.8
百貨店(*1)	0.4	0.9	0.4	0.9
スーパー(*1)	2.7	3.1	3.4	1.8
大型小売店(*2)	0.3	0.2	0.0	1.1
(季節調整値)(*3)	(1.2)	(0.1)	(0.2)	(0.8)
乗用車(*4)	35.2	18.4	24.9	47.0
(季節調整値)(*4)	(12.4)	(30.4)	(6.8)	(16.8)

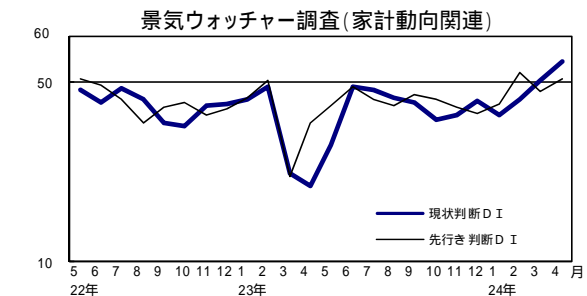
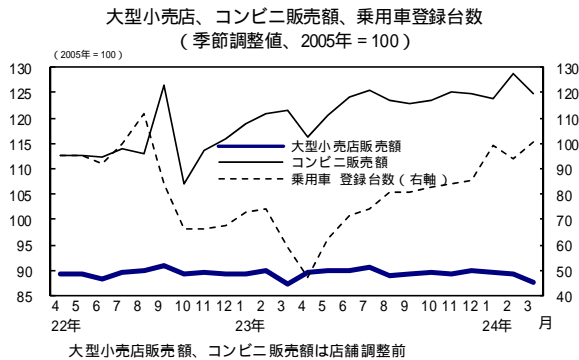
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

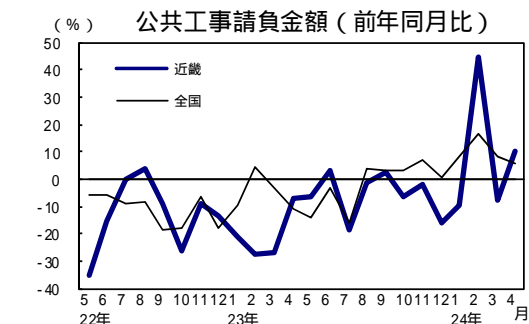
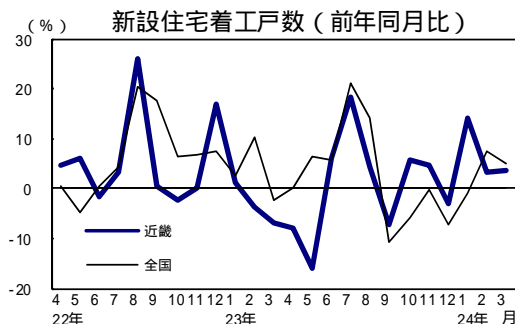
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が前年を上回ったことから全体では増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

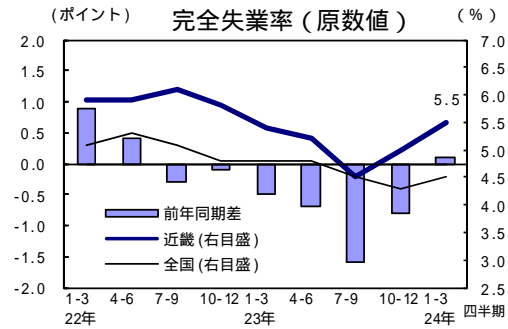
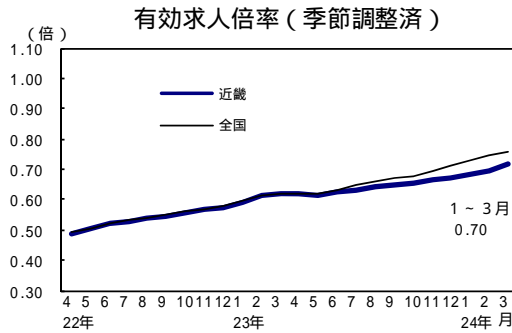


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

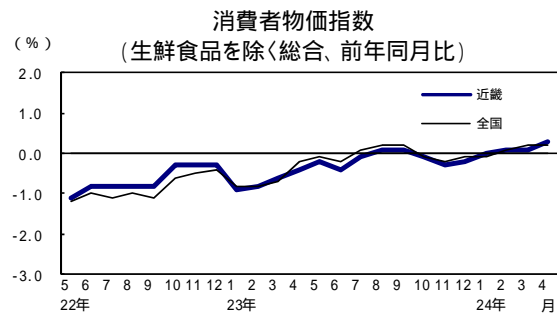
「関西経済のけん引役である電機、電子部品メーカーの業績不振により、関連企業も採用を絞り込んでいる（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	24年4月
倒産件数	902	839	858	788	248
(前年比)	3.6	2.6	11.0	8.1	16.5
負債総額	1,027	1,121	1,329	1,019	400
(前年比)	38.3	18.4	68.2	29.5	21.1



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・客単価がやや上昇してきており、客の様子も以前に比べて格段に明るくなっている。東日本大震災後の特需を差し引けば、消費も前年に比べて徐々に回復している（一般レストラン）。

<先行き>

・燃油サーチャージの上昇が気になるところではあるが、海外旅行の好調は円高基調が一気に変わらない限り、今後も続く（旅行代理店）。

